

# かけ橋

## 第4・5回ミニセミナー

### 「こみっと」を開催しました!

今号では12月7日(火)、  
1月19日(水)に行われた  
ミニセミナーについて紹介  
します。

テーマ「特別支援教育でのICTの活用について～理解を助ける活用法～」

#### 事例紹介①～ドロップトークの活用～

言葉でのコミュニケーションが難しい児童が、朝の会でドロップトークを使いながら司会を進める事例を紹介。名称や行動、気持ちなど、いろいろなシンボルを使えるため、汎用性が高いです。



#### 事例紹介②～喫茶接客学習アプリ～

高等部総合サービス班で使用しているアプリを紹介。注文の書き取りが難しい生徒は注文入力として、また、接客に自信のない生徒は、流れを確認する手掛かりとしてタブレット端末を使うことで、スムーズに対応することができるようになります。



テーマ「次年度への引継ぎに向けて～個別の指導計画、個別の支援計画～」

### 講話から

評価をして引き継ぐ際には、改善案を作るといい。次年度案として作っておくと、次の担任が助かる。

評価の際は、支援や指導が効果的であったかを考え、必要がなくなったものはやめる、効果がなかったものは切り換えることが必要。

支援者が保護者や本人と対話することは、引継ぎに生かすことができるとともに、良好な信頼関係をつくる機会にもなる。

### 協議から

中学校の特別支援学級から、普通高校への進学を希望していますが、入学後の生活に不安があります。  
→高等学校に事前に相談し、配慮事項について具体的に話し合うといいです。



## 職業教育につながる中学校との交流

中学校段階からの職業教育として、本校では作業学習を通して中学校との交流を行っております。作業学習の見学や体験をすることで、挨拶、返事や報告、最後まで作業をする体力など、「働く力」について考えるきっかけとなりました。また、同世代の仲間と一緒に作業をすることで、「関わりの幅が広がった」「いい刺激になった」と感想を話している方もいました。来年度も継続して行うことで、将来の職業生活に結び付く基盤づくりを進めていきます。



教えて！  
専門監④

指導・支援を就学、進級、進学先等に引き継ぐ

そろそろ、次年度に向けた評価と引継ぎの作業に取りかかる時期となりました。引き継ぐことの大切さについては、県発行の「校内支援体制ガイドライン」に次の記載があります。

障害のある幼児児童生徒は、就学・進学等に伴う対人関係や1日の流れといった環境の変化などにより、新たな学習上又は生活上の困難が生じたり、困難さの状況が変化したりする場合があります。このため、それまで行ってきた支援を就学先・進学先等へ確実に引継ぎ、一貫した支援を充実させることがとても重要です。

幼児児童生徒の特性によっては、指導者や仲間、教室、時間割、学習内容などの変化にとまどい、強い不安を感じて、その環境に適応できずにいる場合が考えられます。年度が変わっても、担任が変わっても、効果的な指導・支援を確実に引継ぎ、幼児児童生徒が安心して過ごせる状況を整えていきたいものです。

引継ぎのツールとしては、各種計画書（実態把握表、個別の支援計画、個別の指導計画、年間指導計画等）の他、教材や教具、ワークシート、学習指導案、指導記録、作品（画像で保存）等が考えられます。これらを個人ファイルとしてまとめておきましょう。

引継ぎの方法としては、以上のような資料の移管や指導者間の面談が考えられます。加えて、保護者や幼児児童生徒本人による引継ぎが効果的です。このことについて「ガイドライン」には次のような記載があります。

就学・進学等のいわゆる「移行期」の支援では、支援の対象となる幼児児童生徒と保護者が必要な支援の継続性を確保することで不安を解消するとともに、就学先・進学先等や支援内容に主体的に関わり、よりよい支援や合理的配慮を求めることができるように促すことが大切です。



指導者は、保護者や幼児児童生徒本人に、効果的だった支援内容や今後希望する支援内容を尋ねてみましょう。こうした保護者や幼児児童生徒との対話は、良好な信頼関係を作る機会にもなります。

特別支援教育に関わる情報提供や相談等、お気軽にお問合せください。  
教頭：仲山智 教育専門監：小笠原英紀 地域支援部主任：船山真生  
TEL 0185-55-0691 FAX 0185-55-0681  
ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp>  
E-mail [noshiro-s@akita-pref.ed.jp](mailto:noshiro-s@akita-pref.ed.jp)